

「確かな学力」を育む学習指導に関する研究

—「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくりを通して（3年次）—

I 研究の内容

1 児童の教科及び学習習慣の状況把握と改善すべき課題の整理

- (1) 平成 26・27・28 年度 NRT 検査結果分析（全学年）と課題の明確化
- (2) Q-U 検査（全学年）K13 法による分析・アタックシートの作成・活用の充実
- (3) 平成 28 年度山梨県学力把握調査（3・5 年）及び全国学力学習状況調査（6 年）
結果の分析・課題解決のために必要な取組の検討・実施

2 学習会

(1) 本校教諭による学習会

ア「面積図を使った指導に関する学習会」中村 裕司教諭

イ「2本の数直線の見方の工夫」 梶原 美奈子教諭

3 「わかる」「できる」を実感できる手立てを取り入れた授業実践

(1) 研究授業

第2学年研究授業 「かけ算（1）」 廣瀬 敦子教諭

指導助言 峡東教育事務所・指導主事 三森 公仁先生

(2) 授業実践

第1学年授業実践 「たし算」 堀井ますみ教諭

第3学年授業実践 「変わり方調べ」 上矢 元気教諭

第4学年授業実践 「計算のやくそく」 前島 国学教諭

第5学年授業実践 「分数のたし算とひき算」 金井 巖 教諭

第6学年授業実践 「わり算の表し方を考えよう」 梶原美奈子教諭

つくし（情緒）学級授業実践 「つくしバーガーショップをひらこう」 植原 恵子教諭

すみれ（知的）学級授業実践 「並べ方と組み合わせ方」 野尻 政彦教諭

あおば（難聴）学級授業実践 「速さの表し方を考えよう」 中村亜矢子教諭

II 成果と課題

研究主題「『確かな学力』を育む学習指導に関する研究」を進めるために、「わかる」「できる」を実感できる算数科の授業づくりに取り組んできた。各種調査の結果分析から、研究が児童の学習意欲や学力を向上させることにつながるという成果を検証することができた。Q-U検査の結果では、児童の学習意欲の数値が全国平均を上回ることができた。しかし、2回の結果を比較すると、1回目より2回目の方が上まわった学年が一学年しかなく、課題が残った。ポイントではわずかではあるものの、今後の課題となった。また、毎年行っている「学校生活アンケート」の結果、「授業は楽しいですか」の問いに対する「とてもそう思う」と「思う」の回答が4ポイント、「一生懸命授業に取り組んでいますか」の問いに対する「とてもそう思う」と「思う」の回答が2ポイント増えていることから、研究が児童の学習意欲の喚起につながっているといえる。その一方で、「先生は、授業でわかるまで教えてくれますか」という問いに対する「とてもそう思う」と「思う」の回答は、4ポイント下回ってしまった。児童の学習意欲をさらに向上させるためにも、教師側の意識改革が問われたと感じる。学力については、算数科の単元末テストの結果、学校全体の到達率が84.6%という数値を示していることから、学力の向上につながったといえる。しかし、4つの学年で市販テストの目標期待得点を上回ったが、2つの学年は下回ってしまった。あくまでも市販テストの目標期待得点ではあるが、達成できなかった学年があったことは課題である。

しかし、課題も明確になった。校内研究のふりかえりの中の自由記述の内容に現れているように、「授業の中で、発問の流れが明確でなかった」「十分な準備をして授業に挑んでいるつもりだが、いざ授業をしてみると準備不足や児童の実態把握ができていなかった」「自分への厳しさが足りなかった」といった自己反省があったこと、研究時間を確保しての共有化の時間が十分でなかったことがあげられる。また、甲州市「確かな学力」育成プロジェクト・県の学力向上のための取組を踏まえ、授業準備の確保、研究授業・一人一実践の実施方法、情報の共有化の持ち方が来年度への課題としてあげられる。本校の児童の実態に基づくテーマ設定と研究成果の共有化を図ることで、同一步調で指導にあたり、「確かな学力」を育む学習指導についてさらに研究を深めていきたい。

III 成果物

- 1 研究授業・一人一実践授業の指導案、使用した教具、ワークシート
- 2 「わかる」「できる」を実感できる算数科授業づくりの手立て

(研究主任 前島 国学)